

踏切隣接舗装工事における注意点

山本建設株式会社 塚平 健太

1.はじめに

本工事は、県道 141 号清水函南停車場線の舗装修繕工事（レベリング工・切削オーバーレイ工）である。当路線は、伊豆箱根鉄道の大場駅に近いため、通勤通学に多くの利用者がいる。そのため、歩行者の安全確保が課題となった。また、施工起点が鉄道の踏切に隣接していることから鉄道会社との調整が課題となる工事であった。今回は私が初めての現場代理人として、この工事に関わった経験をもとに発表する。

工事名 令和 6 年度 [第 3 6 - I 8 0 8 3 - 0 1 号]
(一) 清水函南停車場線舗装修繕工事（切削オーバーレイ工）
発注者 静岡県沼津土木事務所
工事箇所 静岡県 三島市 大場地内
工期 令和 6 年 7 月 1 日～令和 6 年 9 月 25 日
工事内容 表層工 376 m²、基層工 254 m²（レベリング）、
区画線工 140m

※当初設計では、施工延長が 75m だったが、縦横断勾配を考慮した結果、プラスで 5m 増加した。

施工条件 夜間施工（21：00～6：00）車両通行止め
伊豆箱根鉄道協議 30 日



図-1 位置図

設計条件	表層工（再生密粒度アスコン（13）） t=5cm
	基層工（再生粗粒度アスコン（20）） 平均 t=5cm
交通区分	設計速度 30～40km/h 地方部市道 3 種 3 級 (30km/h)

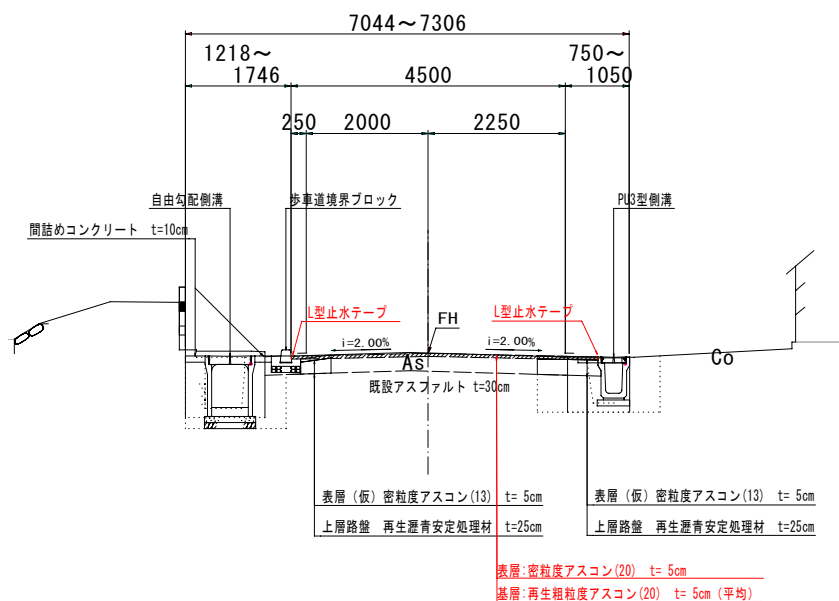


図-2 舗装構成図

2. 現場における問題点

①伊豆箱根鉄道との調整・協議

- ・工事起点が踏切に接続しているため、条件として鉄道の運行時間は、踏切から7.5m以内は立入ができない制約があった。

②近隣住民の対応

- ・道路幅員が狭いために車両通行止めが必要であった。近隣住宅の方の自宅駐車場への出入りが作業時は出来なくなる為、近隣住民の理解、夜間出入りの予定のある方は、仮駐車場への車を移動しなければならないことから、近隣住民の協力が必要であった。

③第三者の安全対策

- ・本工事箇所は、駅に近いので多くの歩行者が通る路線であり、第三者に対する安全対策が必要であった。

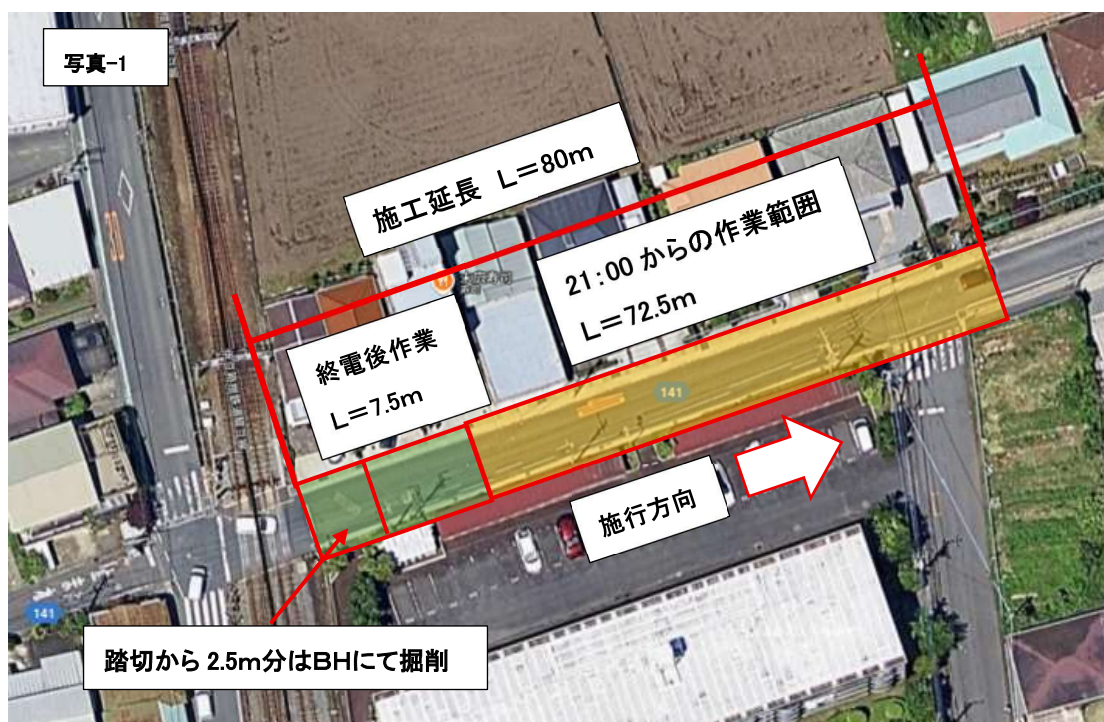
3. 問題点の解決方法

①伊豆箱根鉄道との調整・協議

- ・発注者とともに伊豆箱根鉄道と打合せを重ねて、下記の対応策を行った。

隣接工事の対応策

- ・作業開始前、終了後に伊豆箱根鉄道に連絡を行った。
- ・電車運行時間中は踏切から7.5mをあけて切削機で切削を行い、終点側の舗装版を先に撤去した。(写真-1)
- ・最終電車通過後、伊豆箱根鉄道に電話確認を取ったうえで、起点側の残り7.5m分を撤去した。踏切から2.5mまでの取壊しは、線路を損傷させないように、手持ち式ブレーカーで慎重に取壊し、コンクリート殻が線路内に飛散しないようにベニヤ板を使用しての養生を行った。2.5m～7.5mは切削機を用いての舗装版撤去を行った。



②近隣住民への対応

- ・自治会長に工事内容を説明し、同意を得ることにより夜間車両通行止めでの施工に関するお知らせの回覧を依頼し、地域全体への工事周知を行った。
- ・工事近隣の方及び利用者に分かるように施工範囲に対応した、看板の設置及び個人宅へ施工日を記載した個別のチラシによるお知らせを配布することで協力を得ることとした。

③第三者の安全対策

- ・カラーコーン・コーンバーを用いて、歩行者通路と作業エリアを区分した。
- ・施工起点と終点に誘導員を配置して歩行者が作業エリアに入らないよう誘導した。
- ・夜間施工のため、誘導員は点滅式夜間チョッキ・誘導灯を点灯して、電車運転手・第三者が早期発見できるようにした。

4. 結果

本工事は、施工箇所が住宅地と踏切が隣接している場所であったため、様々な制約があった現場だった。しかし準備期間時に多くの打合せを行ったことで、関係各所の協力を仰ぐことができ、近隣住民等からの苦情もなくスムーズに施工を行うことができた。舗装自体も一日の施工ではあったが、出来形・品質も規格値を満足する結果であった。

5. 終わりに

今回の工事は総延長 80m と短い舗装ではあったが、初めての現場代理人として、舗装工事を経験することができた。特に現場員との立場とは違い、合材ダンプやプラント、当日の施工中止判断などの連絡が多いため、施工当日は他の現場と比べかなりの緊張感があった。

また、本現場は関係各所と多くの打合せが必要であった。そのため資料の作成機会が多くあり、上長の確認を取る際に多く修正が入り、私自身の欠点でもある文章力や見やすい書類の作り方がこれからの課題となることを実感した。

本工事は、初めて経験することが多くあったが、先輩社員や協力業者の方、発注者の方がさまざまな事を指導していただいたことで、工事を完了できた。今後は少しでも現場の戦力になれるように、ICT 技術や施工管理資格の早期取得を行い、舗装現場に携わっていきたいと思います。